

白木観音像

【所在地】伊佐市白木 813 白木神社

【種別】県指定有形文化財（彫刻）

【指定年月日】昭和 29 年 3 月 15 日



白木神社に安置されている本像は素木の寄木造りの観音様で、蓮台上に立つ像の高さは台座とも 1.42m。光背の表裏にその由来が墨書されているが、裏面には「白木山長福寺大導聖観音，行基菩薩御作也，本田三友，応永十五（1408）年三月六日 良清」と墨書してある。

一説には、この像は平宗盛の曾孫清祖が、平家没落のあと京都から護持し、海路出水米ノ津を経て現在の大口市白木に長福寺を建立し、安置したと言われるが、史実ははっきりしない、昔から産婦の観音として、観音に詣ると安産美女を産むという言い伝えがある。

明治元年の神仏分離令から廃仏毀釈に展開した中で、天草の住人良眼坊と言う人が、ひそかに天草に持ち去り難をのがれ、明治 25（1892）年、白木村の氏子らによって持ち帰られ、もとの観音堂に安置された。

参考

観音 観世音菩薩の略で、補陀落山への極楽往生をすすめる菩薩として法華経普門品に説かれている。

菩薩 如来の境地に達する前の段階にあるもので、具体的には、釈迦の出家する以前の太子、つまり王子の姿をかたどり、頭には髻を結び、宝冠や瓔珞、釧などの装身具で身を厳飾している。